

ドクター + 教えて

乳がん検診と マンモグラフィサウンダーについて

磐田市立総合病院 呼吸器外科部長兼乳腺外科部長

伊藤 靖



乳がんは30〜60歳代の女性の死亡原因の1位です。乳がん死亡率を減らすことを目的とする「対策型（住民）検診」では、40歳以上の方を対象とした2年に1回のマンモグラフィが行われ、塊を作る病変や、乳腺で産生される分泌液中のカルシウムが病変に沈着して生じる特徴ある石灰化が、がん発見の手がかりとなります。

マンモグラフィでは乳腺が白、脂肪は黒く写り、病変は乳腺より白く写ることなどで発見できます。乳腺が多い乳房は非常に白く写り、「高濃度乳房」と呼ばれます。その場合、乳腺の中に白い病変が隠れて見つかりにくい。そのため、高濃度乳房と指摘された場合はご自身の乳房をより慎重に観察していただくことが大切です。また、40歳未満や授乳中などはマンモグラフィの診断能が低下するため、超音波検査が有用な場合があります。しかしこの検査では、がんと紛らわしい病変が見つかり不安が高まるなどの不利益もあります。超音波検査は、自分の希望で検査法を選択できる「任意型検診」で、不利益も理解した上で実施を決めていただくことをお勧めします。

当院では、ピンクリボン運動の呼びかけにに応じ、多忙な女性のためのジャパン・マンモグラフィサウンダー「10月第3日曜日に全国どこでもマンモグラフィ検査が受診できる環境づくり」に賛同しています。今年も、10月20日(日)にマンモグラフィや超音波検査を選択する任意検診を行う予定です。ご希望の方はぜひこの機会をご利用ください。

また、自身で乳房の変化を感じた場合は、早めに病院で精密検査を受けるようにしましょう。

「がん検診」を受けましょう

◎磐田市立総合病院 健診センター
☎38-5031

「がん」は日本人の死亡原因の第1位となつていますが、診断と治療の進歩により、がんの種類によっては早期発見・早期治療が可能となつてきました。

◆がん検診の目的

がん検診の目的は、がんを早期に見し、適切な治療につなげ、がんによる死亡リスクを減らすことです。

◆「利益」・「不利益」があることを理解しましょう

がん検診を受けることの最大の「利益」は、早期発見・早期治療による救命です。早期であれば治せる可能性が高く、治療も最小限で済む場合が多いので、身体的・経済的負担や時間は一般的に少なく済みます。

対して「不利益」として、がんの種類やできた場所によっては、その時の検診では発見できない、または、がんが無い場合でもがんであると判断される場合もあります。

がんから命を守るためには、検診結果が100%正しいわけではないことを十分理解し、がん検診を定期的に

受けることが大変重要です。

自治体が行うがん検診は「対策型がん検診」と呼ばれ、不利益が大きくならないように取り組みがなされ、科学的根拠に基づいて効果がある公共的な予防対策検診として国が定めています。

◆健康寿命を延ばしましょう

磐田市立総合病院健診センターでは、「対策型がん検診」に準拠したがん検診に加え、「1日人間ドック」や高機能・高精度な診断・検査機器を用いた専門ドック（脳ドック、心臓ドック）も実施しています。人間ドックは体の状態を詳しく調べることができ、当日、医師より検査結果の説明や保健師などの専門スタッフの保健指導を受けることもできます。

ご家族やご友人と、いつまでも自立した生活を送ることができ「健康寿命」を延ばすためにも定期的ながん検診・健康診断を受けましょう。



くらしの
情報